第44回　歴史リレー講座「都の寺と山の寺」　森下　惠介氏（H30. 5. 20）

古代の寺院というと、奈良の都に営まれた大安寺、薬師寺、元興寺、興福寺や東大寺、西大寺、唐招提寺といった都の寺々が代表的ですが、この都の寺の対極に山地に営まれた寺があります。

『続日本紀』に記載される聖武天皇の「国分寺建立の詔」（741年）には寺を建てるのにふさわしい地について述べており、清浄性を第一にして僧侶の修行を考えれば、人々が暮らす俗界からある程度離れた地で、参詣や造営、維持のためにはあまり不便な地も困るということで、人里に近からず、遠からずというのが寺院造営の適地だとしています。事実、古代の寺院跡のほとんどはこうした場所、山麓の平地や丘陵地に立地しています。しかし、我が国に都市が形成されていく七世紀の後半、俗界の中心ともいうべき都に「大寺」が営まれ、ほぼ同時に「山寺」が現れます。なぜ「大寺」は都に営まれたのか、「山寺」はなぜ山に営まれたのかを考えてみたいと思います。

まず、都の寺ですが、平城京の前の藤原京の「四大寺」とされるのが大官大寺、薬師寺、飛鳥寺、川原寺です。飛鳥寺（法興寺）は日本最初の本格的仏教寺院として蘇我氏が建てたもので、この寺と天智天皇がその母である斉明（皇極）天皇の冥福を祈るために造営したとみられる川原寺（弘福寺）は飛鳥にあります。大官大寺の名は、「大王（天皇）の大寺」という意味で、天智、天武天皇の父である舒明天皇が639年に造営を開始した百済大寺がその起りです。大王（天皇）家が最初に造営した寺で、「大寺」呼ばれるのは、この寺だけだったのです。百済大寺の跡は現在のところ、吉備池廃寺跡（桜井市）が最も有力視されています。蘇我氏の勢力圏ともいえる飛鳥でない地に九重塔という巨大な塔を建てたのは大王（天皇）の力の誇示であり、軒平瓦に聖徳太子の斑鳩寺（法隆寺若草伽藍）の押型を用いているのは、舒明天皇即位の正統性の主張ともみられます。また、この寺は王宮である百済宮と対にして造営されており、大寺＝大王の寺は王宮の護持のために営まれたと考えられます。壬申の乱に勝利し、即位した天武天皇はこの寺を飛鳥に移し、飛鳥浄御原宮と対になる高市大寺とし、名を大官大寺に改めます。また、薬師寺は天武天皇が鵜野讃良皇后（後の持統天皇）の病気平癒を祈願し発願した寺で、天武天皇は大官大寺を筆頭に飛鳥寺、川原寺を国家が維持する「大寺」と定め、薬師寺の完成後、これが加えられたとみられます。遷都とともに寺院が移されるのは、「都の寺」は王宮の護持のためのものであり、王宮が移ると、都の寺院も移されるのは、いわば当然のことだといえます。

一方、山の寺もこの時期に現れます。645年の乙巳の変の後、皇位に推された古人大兄皇子は仏道修行のため吉野入りしたとされ、大海人皇子（天武天皇）も壬申の乱の際、出家して吉野に入ります。吉野と仏道修行というのは不可離であり、山水の清らかな吉野の地は神仙境ともみられ、仏道修行の適地であったことがわかります。吉野の地で最古の寺は比蘇寺、七世紀前半の単弁蓮華文軒丸瓦の出土が知られ、吉野寺とも呼ばれるこの寺が山林仏道修行、山居の中心とみることができます。比蘇山寺ともよばれますが、吉野川沿いの吉野の「野」にあって、山地にはありません。山は古来、神の坐すところであり、みだりに立ち入ると神の怒りを招くとして立ち入るところではなかったのですが、金峯の山上である山上ヶ岳（1719m）の山頂では律令祭祀遺物とも言える、奈良三彩、和同開珎、海獣葡萄鏡の出土があり、奈良時代、８世紀には確実に山頂に人が到達し、祭祀を行っていることが判ります。これは七世紀後半に神仏の坐す山、神仏の世界に分け入り、神仏の力を得ようという考え方が仏道修行や中国道教の仙人修行から生まれてきたことと関係するようで、水源としての山岳信仰を基盤とする龍門寺のような山岳寺院もこの頃に現れます。修験の祖とされる役行者（役小角）はこの時期、神仏の力を求めて山へ入った修行者の象徴といって良いでしょう。神仏から与えられた力というのは、役行者像の脇侍である前鬼がもつ薪を採る斧、後鬼がもつ水瓶で象徴される火と水を自在に扱う力とみられますが、現実的には体力と精神力で、山で得た薬草の知識もあったようで、都の天皇や貴族が期待した山での修行で神仏から与えられた拝む力、その験（しるし）の力（験力）は病を治す力であり、奈良時代の高僧の多くは看病禅師と呼ばれています。このように都の大寺は王宮の護持する上で王宮とともにあらねばならず、大寺の僧侶の修行のためには山林、山岳修行のための山寺は不可欠のものであったとみられます。

奈良時代に紫香楽という山中の地に聖俗統合した都をつくろうとした聖武天皇の理想は挫折し、平城京の東山に東大寺が営まれますが、この東大寺は山林修行の場であった上院地区と大仏を統合したもので、二月堂修二会には火と水を自在に扱う古代の山岳修行の在り方をみることもできます。

「都」の寺と「山」の寺

ー官の大寺と山岳寺院を考えるー

森下　惠介

古代寺院の適地

天平13（741）年『国分寺建立の詔』
「造塔の寺は、兼ねて国華とせむ。必ず好き処を択びて実に長かるべし。
人に近くは、薫臭の及ぶ処を欲せず。人に遠くは、衆を労はして帰集することを欲はず」
都市寺院（平地寺院）　都の寺　官大寺の成立
山岳寺院・山林寺院（山地寺院）　山寺・山中寺院・山間寺院

都市寺院の成立と展開

飛鳥寺の創建

百済大寺から高市大寺・大官大寺　　王宮とともに

天武天皇9（680）年の「国の大寺」　大官・川原・飛鳥

藤原京の「四大寺」　　大官・薬師・飛鳥・川原（弘福）
平城京への移転　　大安・薬師・元興・興福

古代山地寺院の検討　山林寺院と山岳寺院

山林修行（山居・禅行修道）を行う山林寺院　　平地伽藍　比蘇山寺　崇福寺

・僧正義淵と岡寺系寺院の出現　山地伽藍

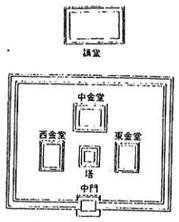
山岳信仰（霊山・岩・水源）を基盤にする山岳寺院　　山地伽藍　長谷寺・南法華寺
龍門寺・香山堂・
室生寺

生駒の山寺と山房

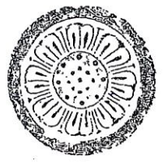
都市寺院と山地寺院

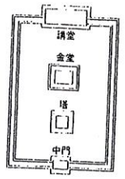
山林修行地である山堂・山房を包括、統合した東大寺

飛鳥寺の創建



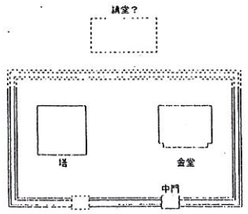
飛鳥寺



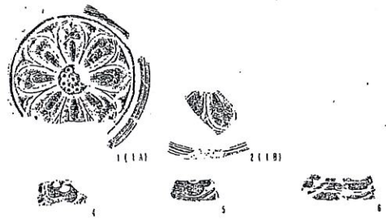


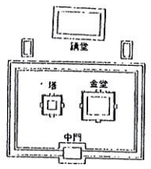
四天王寺

舒明天皇の百済大寺の造営



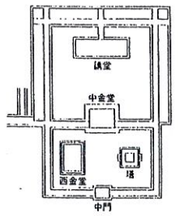
吉備池廃寺



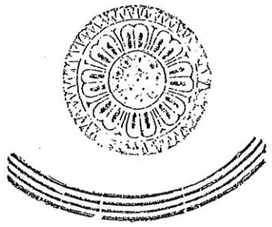


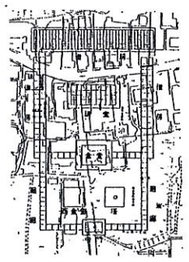
法隆寺西院

天武天皇９（680）年の「国の大寺」　大官・川原・飛鳥

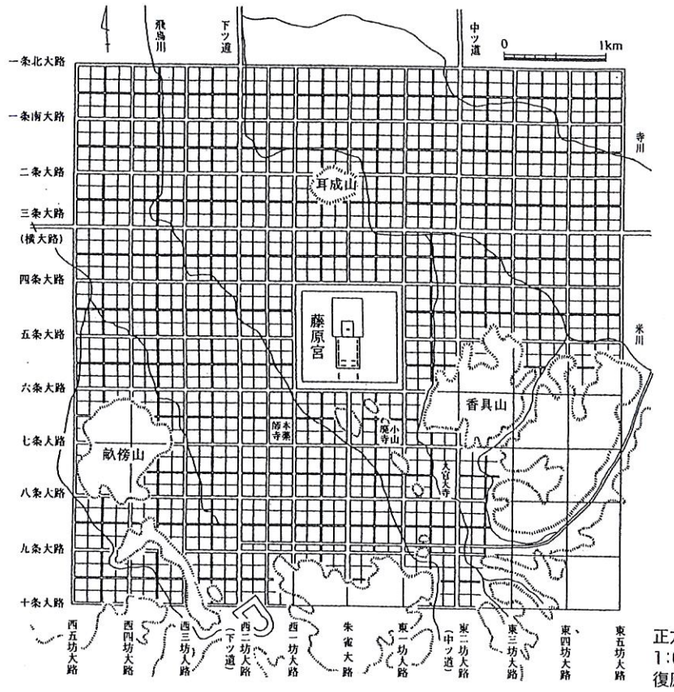


川原寺

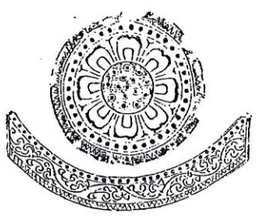


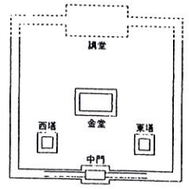


藤原京の「四大寺」　大官・薬師・飛鳥・川原（弘福）

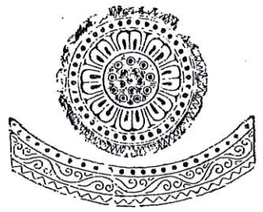


正方形の形制をとる藤原京
1:60000（小澤毅による復原図）

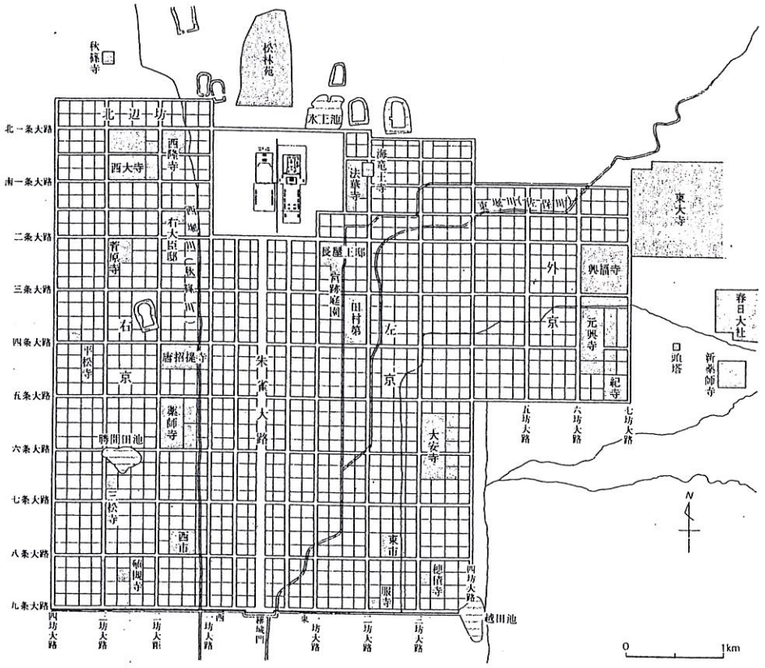


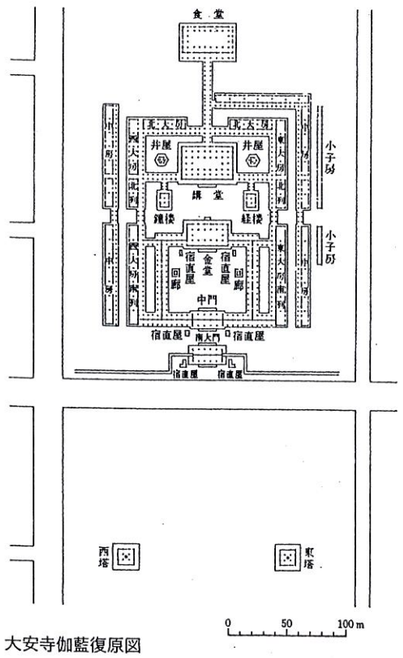


本薬師寺

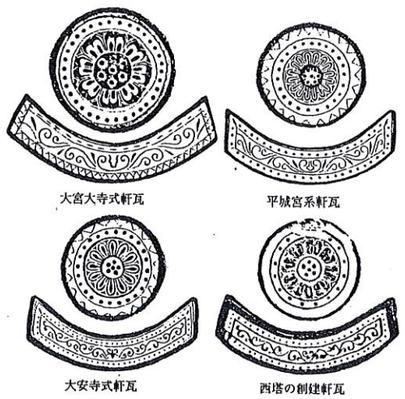


王京とともに　　大安・薬師・元興・興福





大安寺伽藍復原図

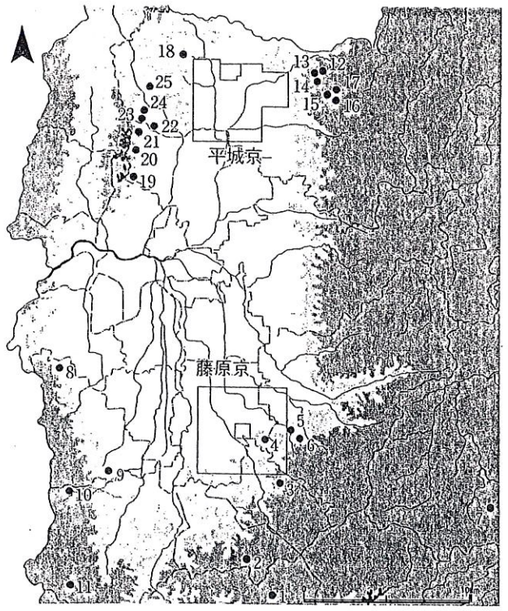


大安寺の奈良時代の軒瓦

古代山地寺院の検討　山林寺院と山岳寺院

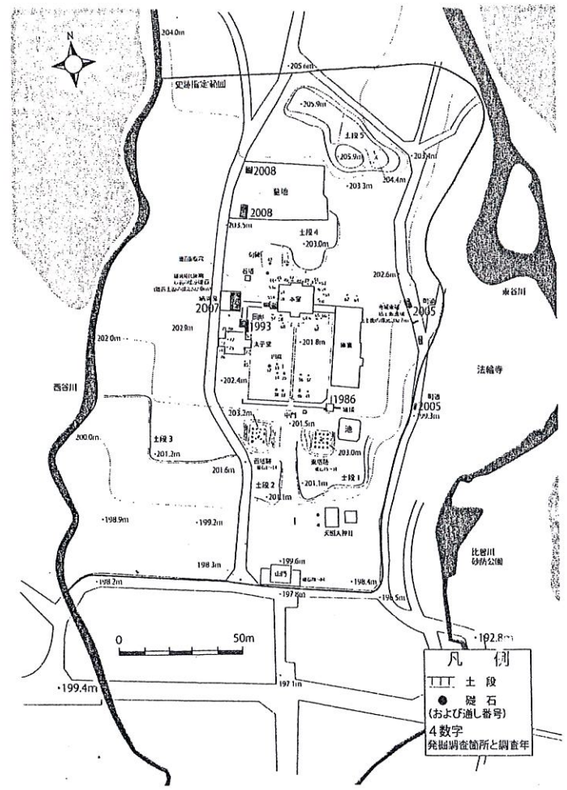
山林修行（山居・禅行修道）を行うための山林寺院　　都の寺の修行場

平地伽藍と変わらない比蘇寺　崇福寺

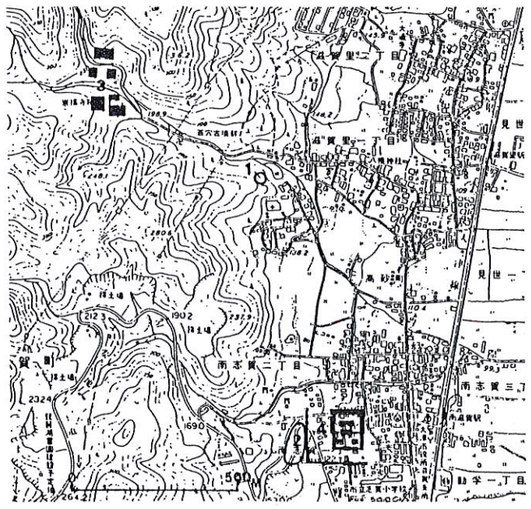


取りあげた山寺の分布

1：比曽寺跡　2：南法華寺　3：岡寺　4：興善寺　5：青木廃寺
6：高田廃寺　7：駒帰廃寺　8：掃守寺跡　9：地光寺跡
10：戒那山寺　11：高宮廃寺　12：天地院　13：丸山西遺跡
14：東大寺上院地区　15：香山堂跡　16：地獄谷聖人窟　17：芳山石仏
18：阿弥陀谷廃寺　19：松尾寺　20：金剛山寺　21：東明寺
22：滝寺　23：追分廃寺　24：霊山寺　25：追山廃寺

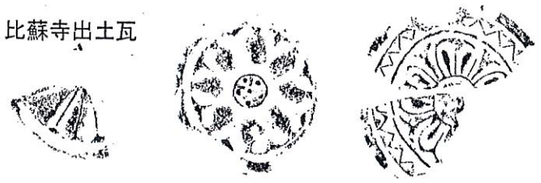


比曽寺跡の範囲と礎石分布図

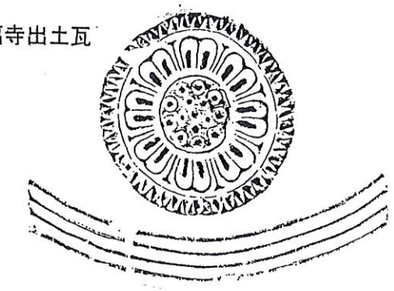


崇福寺と南滋賀廃寺　1．長尾瓦窯　2．檀木原瓦窯
3．崇福寺跡　4．南滋賀廃寺

比蘇寺出土瓦

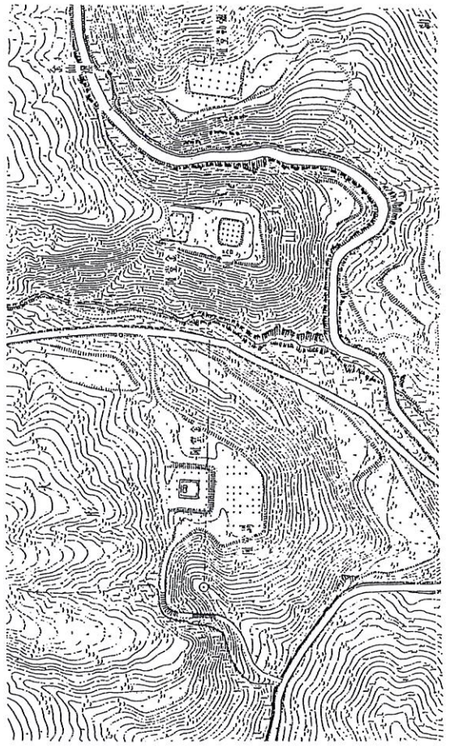


崇福寺出土瓦

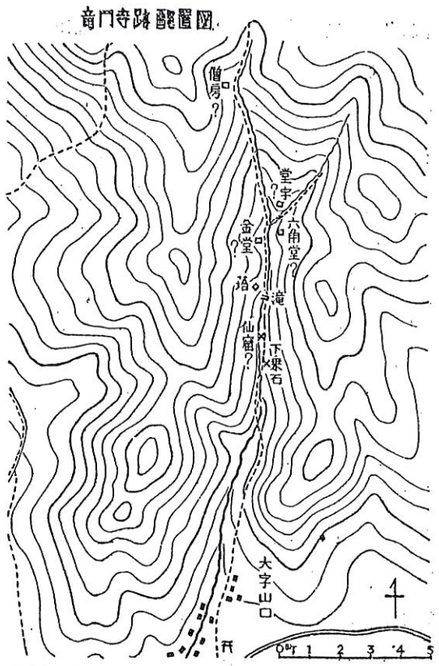


義淵僧正と岡寺系寺院　山地伽藍・山岳信仰（霊山・岩・水源）を基盤にする山岳寺院

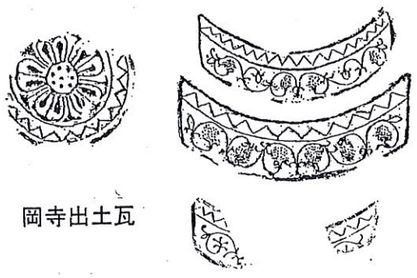
龍門寺・長谷寺・南法華寺・香山堂・室生寺



崇福寺・梵釈寺跡

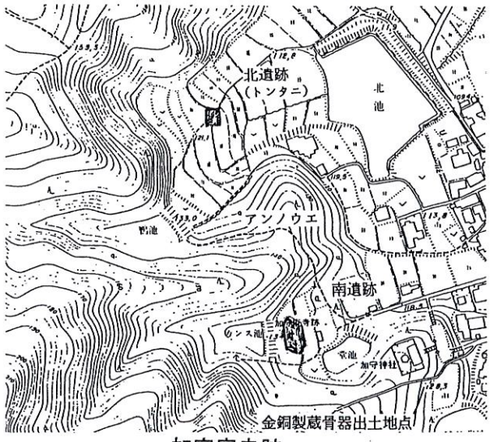


竜門寺跡



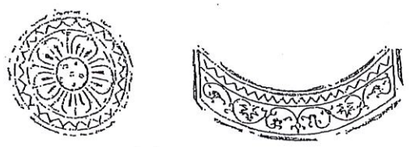
岡寺出土瓦

戒那山寺出土瓦



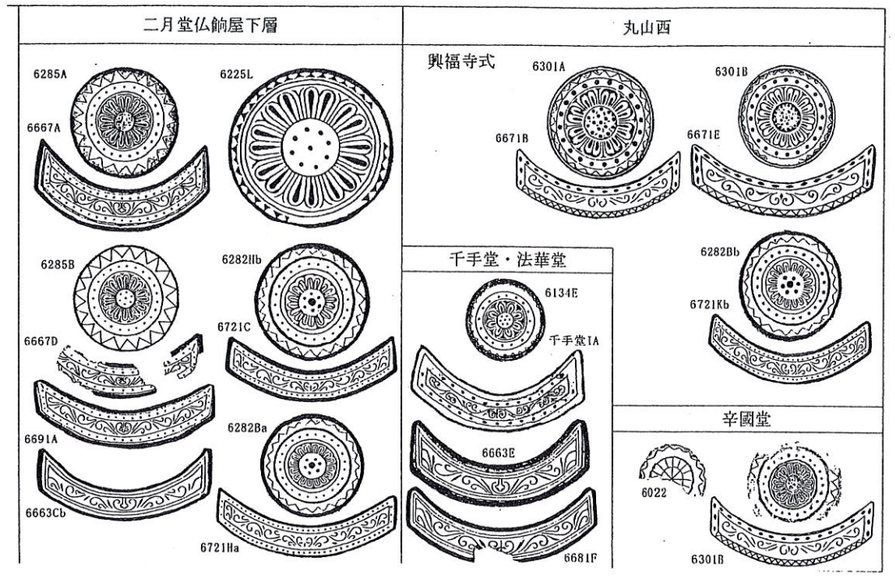
加守廃寺跡

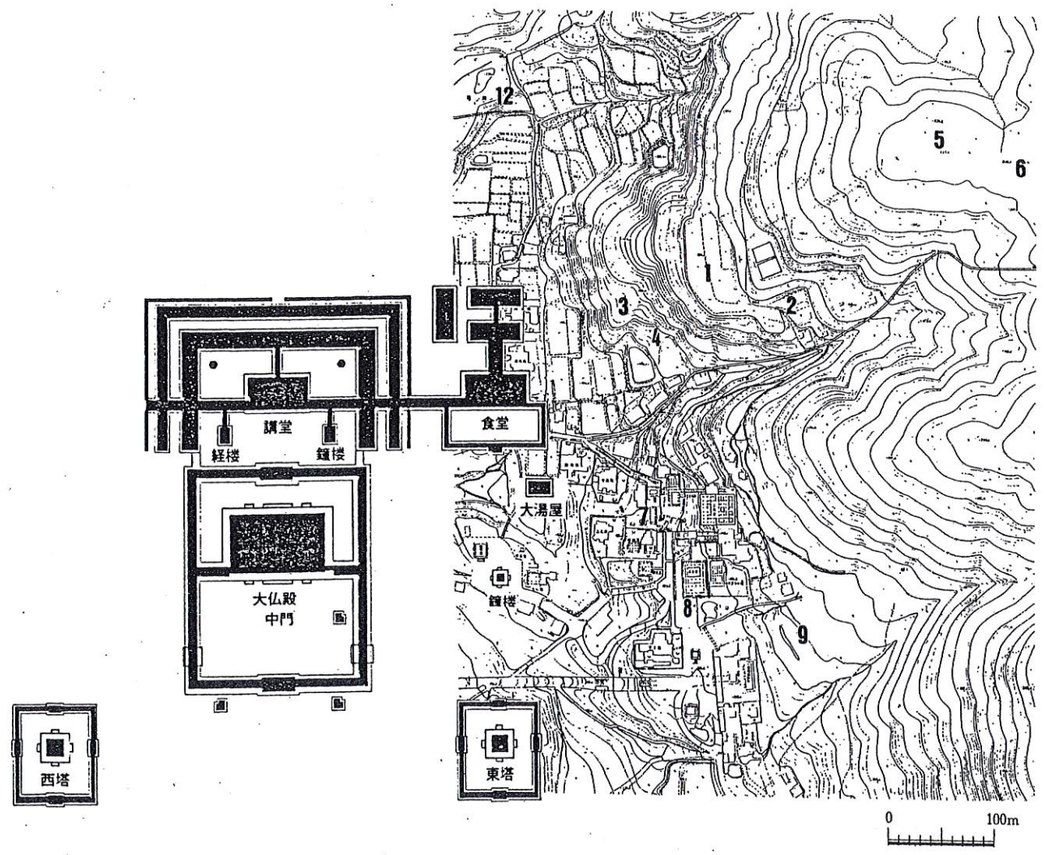
加守廃寺（竜峰寺）出土瓦



南法華寺（壷坂寺）出土瓦

大寺と山寺　- 山林修行地を包括、統合した東大寺 -





東大寺

奈良国立文化財研究所「東大寺（二）」
1：丸山西遺跡平坦地Ⅰ　2：同Ⅱ　3：同Ⅲ　4：同Ⅳ
5：丸山頂上　6：天地院塔跡　7：二月堂仏餉屋　8：羂索堂（三月堂）
9：千手堂跡　10：東塔跡　11：食堂跡　12：知足院山瓦散布地